臺灣日日新報

本日四頁

故山本元帥の英靈
帝都に喪の凱旋
御差遣の勅使出迎へ

【東京電】嗚呼今は亡き故山本元帥の英靈今日ぞ還る、[illegible]世界に冠たる我が無敵帝國海軍を率ゐる自ら航空決戰の陣頭指揮に當り敵機と交戰し南溟の大空に壯烈散華した一億渇仰の巨人山本五十六元帥、芳魂千載に薫る英靈は畏くも[illegible]後國民齊しく

心から なる哀悼を捧げるの裡に二十三日午後二時四十三分東京驛着列車で帝都に光芒放つ武勲と共に限りなき帝都に空なき喪の凱旋をした、米英必殺へ涙を持して日夜[illegible]に戰ふ帝國海軍の聯合艦隊司令長官として全將兵から慈父の如く仰がれた元帥、大東亞戰爭の勃發以來眞珠灣の奇襲攻撃、ハワイ、マライ沖の海戰と緒戰の勝戰に今日の必勝態勢を確立し爾後幾多の海戰にも赫々たる偉功を建てて内外の信望を集めた元帥の[illegible]き喪の凱旋を今何[illegible]を極める[illegible]陛下の[illegible]へようとは——この日驛頭には畏くも

天皇陛下並に 秩父宮妃殿下始め十一宮家からの

御差遣 勅使[illegible]武官並に御使の出迎へを始め寡り黒紋付、喪服に威儀を正した遺族レイ未亡人、次男忠夫君、長女澄子さん、次女正子さん、近親者に嶋田海相、永野軍令部總長、東條首相以下各閣僚、杉山參謀總長、澤本海軍次官、伊藤軍令部次長、海軍各局長、陸軍參謀官、在京各國大公使、同武官及び文武顯官等三百餘名が堵列出迎ける中を元帥の英靈を擁した列車は滑るが如く靜かに四番ホームに到着した、[illegible]の祈りに元帥の遺骨を迎へ今更の如く慨々と迫る限りなき

[illegible]られた遺骨に寄る遺骨は渡邊安次海軍中佐に恭しく捧持され遺族代表[illegible]中將、喪主長男義正君附添ひの上ホームに降り立いて

元帥刀 並に勲章の動功を物語る勲章が夫々捧持されて運ばれ同ホームで勅使の拜禮、各宮家御使の御代拜を受けた、今白木の箱に迎へる亡き夫、亡き父に注がれるレイ未亡人、令息、令嬢達の瞳にはきらりと光る玉露を[illegible]に抑へ[illegible]しみにも似たる感涙で惱み深くいつまでも默禱を捧げた、英靈は海軍省先任副官[illegible]大佐の先導にて[illegible]々と出迎へ者一同の[illegible]を受けながら一旦同驛貴賓室に安置され嶋田海相、永野軍令部總長、各軍事參議官等の[illegible]を受け中央玄關口から海軍省差廻しの自動車へ移り[illegible]先任副官、遺骨、元帥刀、勲章、澤本次官、伊藤次長、遺族の順で分乘した自動車八臺と共に靜やかに行進を起し驛前に[illegible]ふうちを東京驛から[illegible]通を左に折れ日比谷交叉點[illegible]田門を通り懐しき赤煉瓦の海軍省前を經て芝水交社に向つた、この英靈通過の沿道には故元帥の

遺勳を 讃へ無言の祈念を[illegible]めて祈念を捧げる在郷軍人、青少年團、愛國婦人會、大學、高等學生、國民學校兒童、日婦、一般市民が[illegible]然と姉を[illegible]英靈を迎へて[illegible]、哀悼を通して[illegible]起る米英撃滅への烈々たる敵愾心を燃え[illegible]らせて[illegible]のであつた（寫眞は故山本元帥）

嚴肅に英靈安置式
胸打つ"水漬く屍"の奏樂

水交社で嚴かに英靈安置式

【東京電】戸毎に弔旗低く垂れ沿道に市民は啜り泣く、恭しく渡邊中佐に捧持された山本元帥の英靈は種々の思ひ出も今は悲しき水交社別館の祭壇に安置され嚴肅なる英靈安置式が帝國海軍在京最高首腦、遺族、戰友、知己に依りしめやかなうちにも嚴然と執り行はれた、英靈を迎へる水交社別館門内は茶目も新らしく掃き清められ門内には嶋田海相、永野軍令部總長、岡田、末次大將他故元帥の戰友、知己、部下が嚴然と兩側に居流れ門前には海洋少年團が始き手に

弔旗悲しき 弔旗を捧げてゐる、長い[illegible]やうな沈默の時が流れてゆく、やがて海洋少年團の奏樂の音が起つた『水漬く屍』幼く悩いが次の世代を擔ふ頼もしき力の樂の音である、三時十五分海軍省差廻しの自動車が靜かに止つた、英靈捧持者渡邊中佐は[illegible]よりも高く故元帥の英靈を捧げつつ靜かたる歩みを進める、喪主長男義正君が[illegible]正君が[illegible]に深く元帥刀が燦然と煌めきつつ捧持されてゆく、大勲位[illegible]功一級[illegible]、元帥[illegible]が故元帥直屬の部下にそれぞれ捧持されて祭壇に運ばれてゆく、白布に包まれた英靈は[illegible]しかかつた、故元帥が在りし日に[illegible]んで[illegible]臣かこの玄關を踏んだ事であらうか

元帥の温容 は髣髴として浮んでくる英靈は祭壇に安置された、何と云ふ簡素な祭壇であらうか花輪六對、生花一對、[illegible]十一基が故元帥英靈安置式を飾る總てである、祭壇中央英靈の背面には溫容溢るる正裝の故元帥の遺影が掲げられ『故元帥海軍大將正三位大勲位功一級山本五十六之柩』の銘旗が靜かに垂れてゐる、英靈には紅白の供物が供へられ 秩父宮家より賜はつた榊が飾られてある背後には遺影を幕開けに東條首相、海軍大臣、軍令部總長、軍事參議官、聯合艦隊司令長官、各鎭守府司令長官、航空本部長、支那方面艦隊司令長官の各榊、花輪が並び第三十二期生、親族一同の生花一對が限りなき悲しみを湛へて供へられてゐる、祭壇には

英靈に面し て右に遺族、左に海軍省局部長以上、各部代表が並び安置式は嚴かに三時三十分開式された、祭主西久保八幡神社吉田光長 社司は 恭しく『海山の幸』を捧げて神前に供へ、[illegible]立のうちに祭詞を奏する朗々たる聲は故元帥の遺徳を讃へ列席者の[illegible]を切々とうつ、續いて喪主義正君が毅然と立つて長く英靈に拜禮する、遺族拜禮の後嶋田海相が額づき玉串を奉奠する海軍大臣として又四十年の海軍生活を倶にした同期生として感慨は無量であらう、つづき親族代表高野[illegible]氏、友人代表永野軍令部總長が進み隨行者が各々[illegible]中將がそれぞれ玉串を捧げて同四時安置式は哀悼のうちにも嚴かに終了した、嗚山本元帥の遺骨[illegible]くて故國に歸り來つた忠魂は今も尚[illegible]しき太平洋に全艦隊將士の心に生き敵撃滅に[illegible]を[illegible]つてゐるのである、銃後一億は今ぞ[illegible]然山本提督[illegible]の涙のうちより故元帥の心を心とし皆を決して敵撃滅に立ち上らねばならない

忠勇義烈を一億繼承
米英撃滅の大國民運動

【東京電】翼賛政治會では二十二日正午から本部で緊急常任總務會を、同午後一時半から總務會を開催、故山本元帥の壯烈なる戰死に對し阿部總裁が全會を代表して東條首相並に嶋田海相を訪問、敬弔の意を表することに決定、更にこの際翼賛政治力結集體たる翼政會の使命に鑑み故山本元帥の忠勇義烈の精神を精神として一億國民の先頭に起つて國民の士氣を鼓舞激勵、敵米英撃滅の戰意を一段と昂揚しもつて皇國不動の勝利を確保するため一大國民運動を展開することに意見を一決、その具體的方途につき二十五日の總務會に於いて各自の意見を持寄り[illegible]協議を遂げることとし三時半散會した、次で全國、衆議院、[illegible]、民間の各部[illegible]長會議を除き右國民運動展開の具體化に關し協議したが更に原案作成のため二十四日各部の理事會を一齊に開いて檢討を遂げることに決定した、[illegible]の間阿部總裁は東條首相、嶋田海相を訪問、深甚なる弔意を表明し米英撃滅の國民運動展開に關して種々懇談を遂げた

畏し御使を御差遣
山本邸に喪中御訪ね

【東京電】畏くも 三陛下には山本元帥薨去の喪に服する同二十三日午前十時半青山の山本邸に御使を差遣され喪中御訪ねとして御菓子一折を御下賜あらせられた

太平洋戰第一主義
米輿論對日反攻を强調

【東京電】**太平洋作戰第一主義** 英首相チャーチルの訪米によつて開かれた今次ワシントン會談が開始される前後各般外電はカサブランカ會談の決定乃至は部分的修正が行はれるのではないかとの憶測を流して來たが、これは戰爭の客觀情勢の變化によるものであると共に一面米國内の輿論の動向が對日反攻即時實行に向つて擡頭して來たことを物語るものであつた、即ち最近ギャラップ輿論調査所の行つた投票においても日本を第一の敵と見做すとの意見は急速に高まつてゐることが指摘されたが、このやうな空氣を反映して新聞論調も近時盛んに太平洋第一主義を强調し始めるに至つた去る四月六日附のハースト系紙は一齊に社説を掲げて『米國が歐洲戰爭第一主義の政策を堅持してゐるといふことは單に英國の手に乘つてゐる以外のものではない、米國は宜しく米國自身の敵たる日本軍の打倒に專念すべきだ』と論じてゐる、又著名な軍事評論家ハンソン・ボールドウインが最近のチュニジア戰線から英本國に渡り[illegible]を遂げての報告にも太平洋戰爭を放置すれば日本は益々強固な基礎を築くであらうから即時對日攻勢に全力を注ぐべきだとカサブランカ方式の[illegible]を叫んでゐる、殊に反日的な[illegible]、チャーチルの演説の行はれた前日の十七日米上院においてケンタッキー選出のチャンドラー議員が前後三時間に亙る長演説を揮ひ太平洋反攻論を主張して『米國民はまず米國の利益に基いて作戰を決定する權利があり、チャーチルは英國人であつて決して米國人ではない』とまで叫んで大きい反響を喚んだ、このやうに米國々民の輿論においては米英戰略の對立の[illegible]とさへいへる對日攻勢を積極的に主張し、延いては次のやうな論議が表はれように至つた、即ち

一、日本軍の戰果が現實的なものとして米國民に感ぜられ始めたこと

一、何事にも主動性をとりたがる米國人が英國の作戰に利用されてゐるとの印象を受け始めた事

三、濠洲、ニュージーランド等太平洋地域諸方の泣訴が米國人を動かし始めたこと

四、對日反攻の遲延は日本をして益々不敗の態勢を確立させるに役立つのみであること

等である、殊に米國人が英國に利用されてゐるのではないかとの猜疑心はチャーチル自らの言動によつて深められたとも見ることが出來るのは皮肉である、カサブランカ會談後チャーチルが英國下院における演説でチャーチルが殊更に歐洲第一主義の決定を强調し『同會談において歐洲戰爭終了後英國は對日戰爭から手を引くものではない』旨をルーズベルトに確約し、[illegible]明記してもよいと述べたことは逆に米國民に對して米英の利益が必ずしも一致しないものであるとの印象を與へ、更に三月二十一日の放送では[illegible]

敵は必ず來る [illegible]

時遂に來た、必滅を期し今正に離艦せんとす

（海軍省許可濟第一〇一號）

忠魂一億に躍動
阿部翼政會總裁談話

【東京電】山本元帥戰死に關し阿部翼政會總裁は全員を代表して二十二日左の談話を發表した

山本元帥の壯烈なる戰死の報に接し衷心より深甚なる敬弔の意を表します、惟ふに大東亞戰爭の赫々たる戰果は 御稜威の下、故元帥が陣頭に起つて指揮嚴密なる作戰を指導せられ功、もつとも大きにあり、國民擧げて故元帥に絶大なる信頼を捧げて居つたのである、しかるに過般[illegible]において作戰指導中壯烈なる戰死を遂げられたことは寔に痛惜に堪へぬ、故元帥の死は帝國の損失となられたが、その忠誠勇武の精神は[illegible]としてわれく一億國民の心の中に[illegible]してゐる、またわが海軍はこれがために[illegible]なさず、故元帥と同心一體とも言ふべき古賀司令長官の下に[illegible]を續けて居られることは寔に心強き限りである、[illegible]國民もまた故元帥の[illegible]の[illegible]に[illegible]し、一段と不屈の[illegible]を[illegible]し、米英撃滅の[illegible]を[illegible]させねばならぬ、ここにわれくは[illegible]んで故元帥の死を悼ふと同時に更に敵の[illegible]を[illegible]の[illegible]たる決意を新たにし政府と協力して一切の時艱を克服し、戰爭目的の完遂に一路邁進してもつて故元帥の[illegible]に報いたいと期する次第である

山本元帥を瑞西紙賞讃

【チユーリツヒ二十一日發同盟】二十一日のスイス各紙は何れも大々的に山本聯合艦隊司令長官の戰死を傳へ同盟[illegible]による大本營發表と共に長文の論評を掲げて故人の[illegible]にその功績を賞讃してゐる、山本司令長官は曾て航空本部長として日本海軍航空隊育成に最も貢獻した人である山本長官が飛行機上に於て戰死を遂げたことは同提督が現代海戰に於ける航空機の役割を如何に高く評價してゐたかを示すと共に指揮官と部下が共に戰鬪の危險を分擔すると云ふ海軍航空戰鬪の傳統を如實に顯現したものである

蔣共軍を徹底的擊碎
赫々十八春大行作戰終る

【山西前線○○二十三日發同盟】山西、河北、河南省境一帶の蔣共兩軍を包圍殲滅すべく去る四月二十日猛攻の火蓋を切つた十八春大行作戰は旬日にして蔣系第二十四集團軍八萬二千を殲滅、更に五月六日より共產軍第十八集團軍司令部及び劉伯承集團に對し大包圍作戰を敢行、石太線以南地區の共產軍を徹底的に擊碎赫々たる戰果を收めて五月二十二日終了したが右につき現地軍は二十三日左の如く公表した

現地軍公表（五月二十三日十二時）軍は茲に十八春大行作戰を終了せり、軍の諸隊は六旬に亙る作戰にも拘はらず士氣極めて旺盛、將兵益々その本然の任務たる作戰警備の重責を全うせんことを期しあり、若しそれ中[illegible]

猛攻一週間で屠る
重慶軍第十集團軍擊滅戰

【東京電】中支方面のわが陸軍部隊の精鋭は去る五月五日から洞庭湖畔の重慶軍約七萬に對し攻擊を開始約一週間にして遺棄死體一萬[illegible]地帶を突破して果敢な殲滅戰を敢行、航空部隊との密接な協同に依る立體戰を展開、各所において[illegible]

和平剿共長官大會
新設の暫編第廿四集團軍

【河南前線○○二十三日發同盟】[illegible]

一機を擊墜

【○○基地二十二日發同盟】陸軍航空部隊は昨二十一日午後[illegible]小蒲にも白晝機上空に來襲した敵小型四機を發見、直ちにこれを邀擊し交戰の結果一機を擊墜、他の一機を不時着せしめた模樣であるが、我方は[illegible]

敵百八十五師の本據宜都に突入
郟中將麾下の國府軍精鋭

【湖南前線二十三日發同盟】[illegible]

遊擊匪百五十歸順申出で

【湖南前線二十二日發同盟】[illegible]

濠洲西部沿岸爆擊

【リスボン二十二日發同盟】メルボルン來電＝西南太平洋反樞軸軍司令部は日本軍爆擊機が二十二日濠洲西部の沿岸地方に來襲し爆彈を投下した旨二十二日發表した

獨伊"鐵の協定"
軍事協定四周年を祝賀

【ベルリン二十二日發同盟】獨伊[illegible]の下に國防軍總司令部内にて記念祝賀會が開催された、[illegible]ドルフ・ミュレル交通相シュテーン・グラハ[illegible]外務次官[illegible]陸軍代表クロー・デイツス陸軍大將[illegible]

國際共產黨の解散を提案

【モスクワ二十二日發同盟】國際共產黨執行委員會は二十二日『世界大戰の現狀に鑑み』國際共產黨組織の解散を提案した、右提案には國際共產黨書記長ゲオルギ・デイミトロフ（ブルガリア）以下ジュダノフ、ワーソフ・アンドレ・マルティー（フランス）、モーリス・トレーズ（フランス）、ドロレス・イバルリー（スペイン）、ウイルヘルム・ピーク（ドイツ）、エルコリー（イタリア）等の各國共產黨代表が署名してゐる[illegible]

【モスクワ二十二日發同盟】[illegible]一九一九年[illegible]

翼贊會、翼政會の全國會議

【東京電】大政翼贊會では來る六月一日及び二日の兩日に亙り本部に於て『全國道府縣支部長會議』を開催する[illegible]

一、[illegible]

一、地方[illegible]

一、國民[illegible]

陸軍司政官【東京電】[illegible]

海軍司政官【東京電】[illegible]

人事

▲中野太隈紀局長 臺北市樺山町一四七の局長官舍に移轉

ヒオスセリー

樂しい戰時貯蓄に
山一の投資信託
[illegible]只今第七次募集中・至急御申込下さい。
一口五百圓
山一證券臺北支店
臺北市京町二丁目十一番地

戰爭保險（動產不動產）
戰爭死亡傷害保險
取扱
火災海上日產保險
本社 東京丸ノ內

貯蓄は銃後の弾丸なり
[illegible]
第一生命保險相互會社
東京市日比谷

新青年 六月號 定價七〇錢 〒2
東京日本橋 博文館
長篇 布哇（ハワイ） 木村荘十
珊瑚海（海戰小說） 大下宇陀兒
青春連絡船（明朗小說） 北町一郎
チーズ 青木二郎
新しき船出（現代小說） 梶野悳三
炭坑の人々 坪內節太郎
パプア族の黑さ 海野十三
密林の飛礫 永井保
天の火（時代小說） 山手樹一郎
馬來の呪術と奇毒（マライ風物誌） 小栗虫太郎
戰ふ報道班員の逞しき血みどろな現地報告
[海] 滑走〇〇日 平手朗
[陸] 航空基地建設 奥山重義

お願ひです、
時節柄節約して大切にお使ひ下さい。
パピリオ

皇后陛下の御心奉じ 銃後女性の敢闘御視察

靜岡縣下 秩父宮妃殿下御成り

【東京電話】皇后陛下におかせられては[illegible]

健氣な遺家族の更生の姿に御感懷

御一日目（二十日）

[illegible]

遺族に御優しくも御勞はりの御言葉

御二日目（二十一日）

[illegible]

女子警防團員の中隊教練を御覽

御三日目（二十二日）

[illegible]

御激勵の御下問 女子工員等の上に

御四日目（二十三日）

[illegible]

宇野マニラ支局長發

[illegible]

誠意・對日協力こそ 比島への絕對要請

新生 [illegible]

理想 [illegible]

右の [illegible]

話は [illegible]

積年 [illegible]

東條首相・比島人小學校を參觀

我が軍政庇護の下 民族の繁榮を約束

斯く [illegible]

重大 [illegible]

司法事務の完璧化へ 更に一層精勵せん

池內高等法院長歸任談

[illegible]

光・東方に燦たり

我等感激に死せん

蹶然起つ！若き緬甸防衛軍

再度 [illegible]

[illegible]

白衣勇士の衣服修繕に奉仕

[illegible]

不動產金融

日本勸業銀行

台北・新竹・台中・台南・高雄

一歩進んだ簡易裁斷の洋裁が……自宅で習へる

[illegible]

出版文協推薦 陸軍報道部 上原訓藏 著 上原マライ語 全四卷

[illegible]

憲兵司令部推薦 思想戰と國際秘密結社

每日新聞連載小說 墓地 北村小松著

東京 曉南社

特種動物精膽藥

心臟や胸・胃

救心

一朝夕一粒

心臟の病で苦しむ人
肋膜や肺のよくない人
胃弱で食慾の進まぬ人
心臟弱く動悸息切の人
ね汗で夜分ね苦しい人

[illegible]

發賣元 救心本舖

ミタミ新聞をよめば
國語が上手になります

皇民新聞

戰爭に勝ちぬくために
みなさん讀んで下さい

（一週三回發行）

發行所 皇民新聞社

日の出 六月號

米本土爆擊の日 陸軍少將 長谷川正道

戰ふ東條首相 相馬敏夫

第二次特別攻擊隊十勇士を讃ふ

ラジオ・ロケーターの話

米國の生產力怖るべきか？ 橫山五市

花咲く道 新連載長篇小說 石坂洋次郎

小說 日本の血 神崎武雄

史談 足利高氏の首 木村毅

小說 母に會ふ日 眞杉靜枝

小說 二貫目鍬 納言恭平

小說 鋼鐵の土俵 淺野武男

天祐神助の國 岡不可止

防空生活心得帖

石油を持てる國日本

間に合せ名案實例集

眞心が結ぶ前線と銃後

勝ち拔く優良隣組

海鷲實戰勇士座談會 歸還七將校出席

價四拾五錢 東京牛込 新潮社

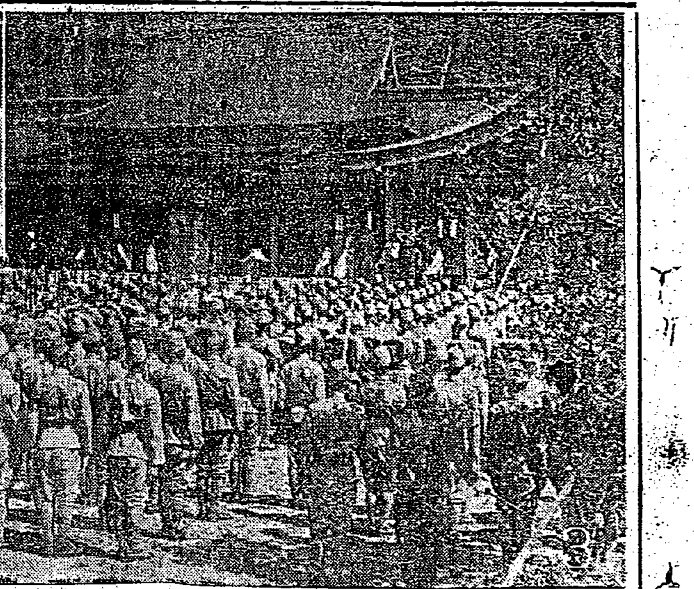
護國神社の例大祭

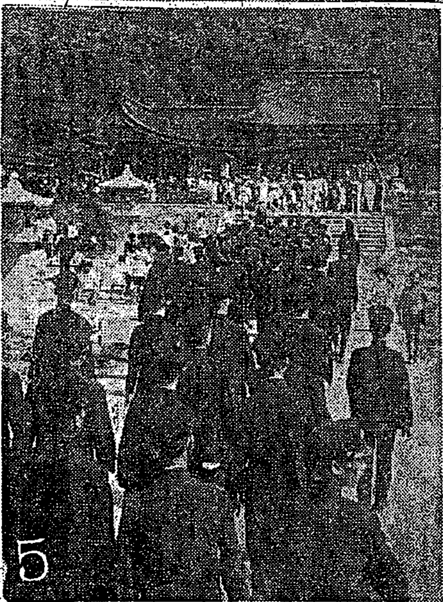
仰ぐ護國の忠魂

誓って米英を撃滅せん

[illegible]、初夏の風も香はしい[illegible]の社、臺北日和に映えた五月の空の下[illegible]六百五十萬の人々がひとしく[illegible]のまことをここに[illegible]し、護國の英靈安らけく永へに鎮まり給へとつきせぬ敬虔な祈りが捧げられた、二十二日夜[illegible]の中に[illegible]三百八十三柱の[illegible]合祀祭の[illegible]が行はれて新たに[illegible]三百八十三柱の[illegible]を祭神に加へ、そしてきのふ二十三日、畏くも幣帛供進使の參向を仰いで例大祭の[illegible]がとり行はれたのだ、[illegible]の遺族たちはこの社に我らの父を、夫を、兄弟を、そうして友を神として[illegible]へ、社頭に[illegible]を捧げた[illegible]忘れ得ぬ思ひ出となしたのである、例大祭の二十三日合祀祭の[illegible]を[illegible]し、香り高き神前に[illegible]

[illegible]な人々の姿は[illegible]にまして行く、護國神社へ[illegible]の社頭へ、[illegible]・[illegible]・一般[illegible]の[illegible]はひきもきらなかった[illegible]、[illegible]の勇士が新たに神と[illegible]に、[illegible]の「[illegible]」の[illegible]を捧げる、米英[illegible]へ、決戦下[illegible]の英靈を[illegible]この日の例大祭にこよなくも[illegible]、我ら六百五十萬の島民は[illegible]を仰いで[illegible]米英を[illegible]せずんばやまない[illegible]を新たにしたのである





例大祭の嚴儀　①幣帛供進使の參向　②參列の安藤軍司令官、伊藤高雄警備府司令長官代理および樋口軍參謀長　③在北陸軍部隊將兵の參拜　④神苑を埋めた遺族の群　⑤一般の參拜者で賑はふ社頭

幣帛供進使參向

音吐朗々祝詞を奏上

新祭神三百八十三柱を加へて[illegible]の護國の[illegible]九千六百九柱をいつき祀る[illegible]護國神社の例大祭は二十三日午前九時からいとも[illegible]かにいとなまれた、神域いやますます[illegible]の社頭には昨夜[illegible]から[illegible]を[illegible]一[illegible]に參列した新祭神の遺族約一千[illegible]や[illegible]の[illegible]と[illegible]の[illegible]

[illegible]とうめつくせば、東側[illegible]には安藤軍司令官、伊藤高雄警備府司令長官代理を始め[illegible]官民五百餘名が[illegible]々と參拜、[illegible]の[illegible]を待つ

第一回看護助手歸還

大任果し、臺灣神社參拜

敢闘語る看護助手

現地皇軍の[illegible]と[illegible]の[illegible]に[illegible]一年間に亙る大任を[illegible]へて〇〇[illegible]しの故郷[illegible]に[illegible]一歩を

[illegible]た第一回[illegible]看護助手〇〇名は現地まで出迎への大[illegible]や家族等に[illegible]れ一旦上北した、二十四日は[illegible]より直ちに[illegible]神社に參拜、[illegible]の[illegible]を行ひ[illegible]に[illegible]府[illegible]生[illegible]づく[illegible]の[illegible]を[illegible]午前九時[illegible]

は[illegible]をはじめ[illegible]部[illegible]司令部、[illegible]民奉公會[illegible]に代表者が夫々出向いて[illegible]十時からは[illegible]に[illegible]の下に[illegible]の[illegible]を[illegible]ここに一ケ年に亙る大任を[illegible]

了し、正午には打揃つて臺北市公會堂における[illegible]民奉公會、[illegible]共同主催の午餐會に臨み、久方振りの[illegible]に[illegible]を打ち[illegible]ら[illegible]で[illegible]を[illegible]、[illegible]や[illegible]に花を咲かせ午後[illegible]時[illegible]

て元氣一ぱい市民[illegible]の中を[illegible]に[illegible]を[illegible]にて[illegible]した[illegible]の[illegible]

實地訓練を活かす

【〇〇電話】大東亞戰に[illegible]の[illegible]〇〇月に亙り[illegible]をつづけた第一回現地派遣[illegible]助手〇〇名は[illegible]昨年四月から日本赤十字社[illegible]の現地派遣の[illegible]助手に[illegible]現地で[illegible]大和[illegible]子の[illegible]を示し[illegible]

沈氏秋蘭さん（新竹州）　あちらに參りましてからずつと外科で働かせていただきましたが、現地における〇ケ月の實地[illegible]で[illegible]んだうに色々の事を致[illegible]ほどいただきましたが、このはりましたので今後[illegible]の女性としてこの經驗を活かし[illegible]の御奉公をいたすつもりです、內地の女性の方から[illegible]問[illegible]を[illegible]

勇士に喜ばれ感激

[illegible]さん（[illegible]州）　私は[illegible]の[illegible]をして居りましたが私たちは男の方が[illegible]兵となつてまだ第一線に出られない[illegible]に[illegible]に出していただきほんとに[illegible]してゐます[illegible]の勇士たちはとても喜んで下され、本島人女性としてこれに過ぎた[illegible]はございません[illegible]する[illegible]り現地[illegible]に[illegible]ました勇士たちは別れを惜んで下さいました中には涙が出る位でした、ある勇士の方は別れに[illegible]を下さいました

時ほど嬉しかつた事はございません、中に入つた[illegible]人形やその他の品物などを[illegible]の[illegible]たちに見せてこの喜びを語らうと思ひわざ／＼持つて帰りました

熱烈將兵の意氣

[illegible]さん（新竹州）　野戰病院で私は內科の仕事を手傳はせていただきましたが僅か一年の間とはいへ、私の一生涯最も光榮ある忘れ得ない思ひ出です、皇軍の將兵たちはいづれも[illegible]を負ひ或は病氣に[illegible]つたことを[illegible]し、こんなにして病床に臥することは[illegible]にも[illegible]の人々に[illegible]しても申し

眼のあたりに見て私たちは何と感謝の言葉を申してよいやらわかりません、病院における仕事……それは苦しいとも辛いとも思ひません、かへつて白衣の勇士たちに可愛がられ、世話されたほどです、なんと強いやさしい兵隊さんでせう、この兵隊さんあればこそ英國は[illegible]いのではないでせうかとつく／＼[illegible]しました

聖域に

[illegible]の[illegible]から吹き[illegible]の[illegible]もたたく[illegible]た[illegible]の[illegible]いて[illegible]を[illegible]に[illegible]いて[illegible]九時[illegible]うとうと[illegible]ら[illegible]に[illegible]、小[illegible]の[illegible]に[illegible]を正し[illegible]は[illegible]官、[illegible]を[illegible]へて[illegible]、手水[illegible]の[illegible]に[illegible]

大命を

[illegible]して[illegible]を奉じ[illegible]

ここに一年間に亙る[illegible]の[illegible]を[illegible]たのである

立派な伜

河上年始さん談

二丁目　河上年始さん（[illegible]）上[illegible]行[illegible]

[illegible]市上等兵は一人息子です、十四年十二月に[illegible]され[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]げました、お國のためです、[illegible]せん、兄[illegible]も只今〇〇部隊に[illegible]しております、[illegible]も[illegible]病院に[illegible]めております[illegible]りますから私は二人の者に向つて何時でも[illegible]は立派な[illegible]だつたお前達兄弟も[illegible]に負けぬやうお國のために[illegible]公せよと申してをります

遺族を招待午餐會を開く

軍人援護會本部

軍人援護會[illegible]本部では新祭神と[illegible]の社に新たに[illegible]りました[illegible]の神々の遺族[illegible]を廿三日午前十一時から[illegible]ホテルに招待して午餐會を開いた、[illegible]から[illegible]の遺族に向つて[illegible]の[illegible]を[illegible]へると共に[illegible]の[illegible]を[illegible]する[illegible]の遺族の今後の[illegible]を[illegible]述べた後、一同は和氣[illegible]に[illegible]を共にして正午過ぎ散會した

肺患へ光明

肺病等の結核に對し本部が提唱する[illegible]が異常な好成績をあげてゐるのは、只表面の症状を治すことを目的とする今迄の療法と異り、肺病へ目標をおき、多數の治驗成績を基礎に經驗、食餌、[illegible]の研究を完成した[illegible]である。

贈呈　〇〇〇〇　係り[illegible]は「〇〇〇〇」にて[illegible]を記し申込次第[illegible]

大阪府[illegible]

[illegible]

十二日目の勝負

[illegible]

十三日目の取組

[illegible]

大東亞戰爭　歷戰の勇士　海軍實戰座談會（三）

徹す一機一艦主義

廿年の悟り、一年で達す

堀內中佐　[illegible]起しが六時半と決つてゐると射手は起床前[illegible]かも知れないが五時半に起きて[illegible]を起して夜の明ける前に方位盤の訓練をやつてゐる、それが一日二日でなく三百六十五日休みなしにやつてゐる、皆が寝てゐる内に起きて照準器を[illegible]かして訓練をやつてゐる、[illegible]血のにじむ訓練です、訓練は[illegible]も[illegible]方も[illegible]な高度に[illegible]しつつやる、それを[illegible]して來なければならない、然も大海の為めに自分の[illegible]が動くと大砲も[illegible]に或は弱に動く、それに因がある、距離が遠いと云ふ[illegible]で非常に難かしい照準の狀況である、それをやる為めには日頃が合

つた時と引金を引く時に[illegible]が生ずるかも知れないと云ふ事を自覚して常に早く動作しなければならないので常時その秘訣を掴む必要があるので乘艦に乘つてゐる時でも今のお話の樣に引金を引く練習をやつてゐる譯です、更に[illegible]名人業でなければ出來ない、鳥を射つより遙かに難かしい、[illegible]司令が云はれたのはここなんです、結局[illegible]も半年休めば負ける譯にこの方も休むと實力が低下するから朝も晩もない、引つきりなしに[illegible]訓練をやる、皆さんが見ると能率の上らないやり方だと思ふかも知れないが、坂の途中で車を押す手を休めば又下に下つて了ふのと同じで各人の[illegible]を習熟しないと何時でも役にたたない、坂を上り切つてある距離に達した所を持つて行かなければならないのです、それ迄に達するには一年や五年では出來ないので、だから海軍の兵隊を

[illegible]に使ふのは勿體ない位なのです、海軍の兵隊は下士官でも兵でも[illegible]なものです、指一本が國家の運命にかかつてゐる、[illegible]や[illegible]と云つた[illegible]でも引金一本に國家の運命がかかつてゐる[illegible]な仕事を下士官がやるのです、一分も油断は出來ない、だから自分の[illegible]は自分が居なかつたら國家の安危を左右するのだと云ふ[illegible]のです、海軍の任務は一つ／＼が下に一生懸命やらなければならんそんな具合で、長官以下全員が大小の差こそあれ重大なる配置にあつて[illegible]の訓練をしてゐるのでありますが[illegible]さんが[illegible]休養に來た[illegible]で[illegible]する為めに[illegible]を見られるわけです、併し一度戰場に出るとよくやれるものだと[illegible]する位やつて居ります、私は[illegible]艦だから[illegible]の[illegible]を申し上げたが各部門々々で[illegible]な訓練をし

て居るのは同樣であります

本社　佐久間さん、海軍航空隊では一機一艦主義と云ふ事を云つて居られた樣ですが之は[illegible]に[illegible]が[illegible]を盛り込んでゐるのでせうか

佐久間中佐　之は[illegible]前から皆がこの決心でやつてゐたと云ふ事はハワイの攻擊以來よく[illegible]されてゐるのでないかと思ふ、飛び立つて行く時は生きて歸らないと云ふ事を[illegible]に決心するでもなく非常な努力も要しないで[illegible]に[illegible]決して飛び立つて行く、之は前からさう云ふ[illegible]が十分出來てゐたのではないか、私は[illegible]上[illegible]で出發の[illegible]を[illegible]る時[illegible]り迎へしましたが

その時に何の不思議もなく至[illegible]然の[illegible]にやつてゐる、朝飯を食べに行く[illegible]に[illegible]に飛び立つて行く、[illegible]つて來る時は[illegible]所からでも[illegible]つて來た[illegible]な氣[illegible]で手[illegible]もしない、所謂一機一艦主義[illegible]りで行くと云ふのは、飛行機に乘り[illegible]めた時既に皆が決心してゐる事なのです

本社　飛行兵の[illegible]訓練の[illegible]はどうですか

佐久間中佐　[illegible]で色々ありますが、[illegible]起しが七時半であつても[illegible]に從事する者は一時間半も前から起きてやつてゐる、よくこんなに早く起きて仕事が出來るものだ、あんなに[illegible]していいものだらうかと思はれる位に早く起きてやつて居ります

本田大佐　私[illegible]に居た時の事を今でも[illegible]て居るが、一艦一艦主義の現はれでないかと思ふのですが、ワシントン、ロンドン[illegible]で五、五、三の比率に[illegible]付けられ[illegible]國[illegible]としては[illegible]練をやつてゐた譯です、その時によく[illegible]でも研究會が開かれて、若し三に對して敵の五の大艦隊がやつて來たらどうするかと云ふ話がよく出ましたが、その席上で或る[illegible]が[illegible]しいとちらの三に[illegible]が五の主力艦がやつて來ても必ず[illegible]つて見せませう、どうするかと云ふと[illegible]先づ飛行機を以て相手の[illegible]の[illegible]がけてぶつかつて

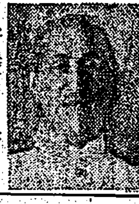
行く[illegible]で行つたら假令五、三の比率でやつても必ず勝つと云はれた[illegible]がありましたが、之は[illegible]分前の話です、[illegible]に[illegible]空[illegible]と云ふものが始めて[illegible]された時代です、その時から[illegible]に[illegible]主義ですな、一機一[illegible]必殺――この決心が現はれてゐた様に思はれるのです、だから何も今[illegible]の[illegible]とか、[illegible]必殺と云ふ樣な言葉でのものは今度の戰爭で生れて來たのかも知れないが、その方は[illegible]心構へは既に十數年前から日本の[illegible]としては[illegible]して居た樣に思はれると私は[illegible]して居ります、敵の[illegible]が[illegible]めがけてぶつかつて行く、そして先づ敵の[illegible]をやつつける、敵の首[illegible]部を[illegible]させて先[illegible]の利を占めて、最初から敵を[illegible]し必ず勝つて見せる――そこに必勝の信念が生れて來るのでせう

佐久間中佐　坊さんが十年も二十年も掛つて始めて悟りを開くのを若い搭乘員は一年位で悟りを開いてゐるのではないか、本[illegible]に今日は死ぬと決心して飛び立つて行くのですが、その時の[illegible]さうな[illegible]は少しも努力などを[illegible]て居ない、[illegible]の[illegible]に今日こそ[illegible]は死ぬと云ふ樣な氣持が、自然に何の努力もせずに[illegible]されてゐる[illegible]つて來た時は一緒に出て行つた[illegible]が歸らなかつたり、或は

兩眼を失つたりしてゐるのを目の辺りに見て[illegible]平然と[illegible]で出發する[illegible]な氣持で出て行く[illegible]つて來て友達が[illegible]つて居なくてもそれを何時迄もくよ／＼氣にしては居ない、明日は[illegible]の番だと云ふ事を平素[illegible]へてゐる、之は[illegible]の[illegible]の際にもう決心がついてゐるからで、今更[illegible]しく[illegible]へる必要もない程決心が出來てゐるのであつて、この[illegible]に私は[illegible]させられました

島崎大佐　十八、九の[illegible]の[illegible]が一年間の[illegible]で二十年も三十年も[illegible]と[illegible]んだ坊主以上の安心立命の[illegible]に[illegible]して死んで行けるのは[illegible]に天皇陛下の[illegible]である[illegible]を[illegible]に[illegible]じ、[illegible]日本の光輝ある二千六百有餘年の歷史と國[illegible]を守ると云ふ大なる[illegible]を自覺することに依つて始めて出來るのだと思ふ

本社　宇野さんに潛水艦のお話を一つ



宇野少佐　潛水艦の特性は[illegible]知の通り[illegible]が大事で相手に見つけられたら何にもならない、潛水艦は先づ[illegible]されない事が必要です、それから乘員が一人一[illegible]で一人の間違ひによつて潛水艦は沈む、敵を發見して[illegible]をしなければならない場合に一人の不注意から[illegible]が遅れると敵にやられる、一人々々が非常な重大な[illegible]を[illegible]めてゐるので各自[illegible]に[illegible]

[illegible]になつてゐる、ではどう云ふ風にやつてゐるかと云ふと、天は自ら助くる者を助くと云ふ事がある様に、天は決して努力しない者には味方しない、どうしても天から助けて貰はうと思へば人事のあらん限りを盡して然る後に神佛に頼るさうしたら天は必ず助けて呉れるその為めには必ず自分の[illegible]は[illegible]な所でも、[illegible]な狀態にあつても[illegible]自分でやり通す、自分の使命は[illegible]果せる樣にしなければならない

その爲めにはどうするか、一日に一つ自分の[illegible]に不安な所を見付ける、例へば[illegible]を[illegible]した時は次の手段はどうすべきかと云ふ具合に、不安を求めてそれを解決する、斯うして一日に一つ[illegible]不安を解決して行くと[illegible]に[illegible]て一、二箇月もたつと、如何に[illegible]な時でも[illegible]のベルが[illegible]ると云ふ事が直ぐに判る[illegible]になる、そこで始めて落ちつきが出來て、大[illegible]になる、大[illegible]なる[illegible]の[illegible]で[illegible]必ず[illegible]なる[illegible]を[illegible]ねばならない、さうでなければ小勇である、[illegible]べき所を[illegible]んで人事のあらん限りを盡して[illegible]を遂行する事が[illegible]の勇である、私は何時も[illegible]に云

つてゐるのです、それからもう一つは先に申上げました所謂[illegible]任です、その爲めには敵より早く發見しなければならぬ、先に發見されたら效果がない、敵の知らない裡に[illegible]し敵に近接する、そして始めて自分の方は全然被害なくて然も大きな仕事をやつつける、潛水艦は中途半端な事は出來ない、こちらがやられるか、[illegible]をやつつけるか、食ふか食はれるか、どちらかである

から見張りは非常に[illegible]です、[illegible]つて[illegible]としても浮上してゐる時は下には降りない、[illegible]を打つのでも暗い[illegible]から下の者に口で云ふ、決して明るい所を見ない、[illegible]に[illegible]い所を見てゐると猫の目と同じで見えて來る、又潛水艦は[illegible]內で[illegible]は吹のな

い、酒を飲めば[illegible]力が[illegible]るので酒も煙草も飲ませない、潛水艦乘員にとつては目が非常に大[illegible]です、それから如何に[illegible]くても[illegible]の[illegible]な[illegible]いものは一切[illegible]ない、それは敵を發見した場合には一分以內に[illegible]を[illegible]さなければならないので[illegible]いものを身につけてゐては[illegible]に[illegible]が出來ないのです

よく部下から[illegible]は何時[illegible]てゐるのですかと聞かれるが、それ[illegible]程は[illegible]と[illegible]を下らない、それから[illegible]は潛航[illegible]にあるが、[illegible]は一定だから[illegible]るし、[illegible]ガスはどん／＼充滿するし、水の中に入つてゐるのだから[illegible]しいだらうと思ふかも知れないが、潛航中は[illegible]力でモーターが[illegible]つてゐるので非常に[illegible]內は[illegible]いのです、それでなくても南の方は[illegible]いのであるから非常な[illegible]さです、基地を出發してから基地に歸る[illegible]は[illegible]に太陽を見ない、[illegible]その他二、三名の[illegible]が見るだけです、さう云ふ[illegible]で長く潛航して日沒後に發見されない樣になつてから浮上する、その時最初の[illegible]チを[illegible]くと外は[illegible]しいから冷たい風が入つてくる、其空氣の味のうまい事[illegible]よりも美味しい、空氣の有難さをわれ／＼はつく／＼感じて居る

【高雄警備府檢閱濟】

座談會出席者	
高雄警備府參謀長　マライ方面作戰	島崎大佐
ジャワ方面作戰	石川少佐
南支方面作戰	西野少佐
ハワイ方面作戰	本田大佐
セレベス方面作戰	堀內中佐
ヒリッピン方面作戰	佐久間中佐
〇〇方面作戰	宇野少佐
〇〇方面作戰	登岐少佐
南東太平洋方面作戰	菅井少佐
本社側　杉野主筆、大竹高雄支局長以下	

宜蘭市で開かる

國防訓練指導員講習會

【宜蘭電話】日[illegible]本部[illegible]指導員[illegible]會は[illegible]生活の確立と[illegible]人の[illegible]事項での他を目標として二十三日午前九時宜蘭市公會堂に[illegible]されたが[illegible]本部からは[illegible]、同[illegible]から[illegible]等が[illegible]、[illegible]員三十四名並に來賓[illegible]以下[illegible]の[illegible]、[illegible]から[illegible]の[illegible]の[illegible]があり[illegible]を[illegible]了、次いで[illegible]部長の[illegible]、[illegible]の[illegible]について[illegible]に[illegible]入り[illegible]より[illegible]につき[illegible]な說明があり[illegible]池田[illegible]の[illegible]に[illegible]する[illegible]があつて休[illegible]、午後一時より四時三十分に至るまで池田[illegible]長並に[illegible]其の他が[illegible]止血法、三角巾の[illegible]の實地指[illegible]を行ひ[illegible]

ロイマチスにしっぷ　デルモライン

汕頭にコレラ發生す

【[illegible]支局特[illegible]電】昨年[illegible]より冬にかけて"コレラ"の[illegible]を見たが今年は早くも初夏の[illegible]から汕頭市にコレラが發生し目下[illegible]の[illegible]を見せてゐる、[illegible]市內に中國人コレラ患者一名が出たのを手初めに[illegible]患者が發生し現在八十五名の多きに達してゐる、しかも目下南支[illegible]の[illegible]を後に[illegible]へてゐるので一層コレラ[illegible]が[illegible]するものと見られ、今より[illegible]なるコレラ[illegible]を[illegible]へられてゐる、[illegible]コレラ流行に先立ち邦人一同は[illegible]の下に[illegible]注射を[illegible]了、中國[illegible]も[illegible]の指[illegible]の下に[illegible]注射を行ひコレラ[illegible]に大[illegible]の努力をなしてゐる、邦人には未だ[illegible]者はない

二千圓を獻金

臺北市[illegible]町二丁目[illegible]は二十一日[illegible]司令部に[illegible]て二千圓の國防獻金を申出た

基隆座劇場　中央劇場　旭座劇場

[illegible]

基隆の映画

東寶國際館　23日より27日まで　日本ニュース　[illegible]

台北州合同興行　基隆世界館　第三世界館　太平館　萬華劇場　城南映劇　芳明館　芳乃館　新世界　台劇　大世界

[illegible]

今日の映画と演藝

水性　油性　便利　カセイン　ガンマー　[illegible]　臺北市[illegible]町三番地　庄倉[illegible]商店

ダンダンは風の妙藥　發賣元　北州資藥[illegible]　東京市小石川區[illegible]　代理店　大阪市[illegible]　大木合名會社　同　支店　○各藥店にて取扱ふ○

明るい印刷　精美堂　本町三丁目　五六二七

父林樹龍儀病氣療養中ノ處五月廿二日午後二時死去仕候間此段謹告仕候　臺北市大稻埕[illegible]　昭和十八年五月二十四日　男　林福臨　林福興　[illegible]

當社監查役林樹龍儀病氣療養中の處五月二十二日午後二時永眠仕候間此段謹告仕候　臺北產業株式會社

會葬御禮　長岡創造

妻ノブ儀昨二十二日午後五時急病にて死去仕候間生前の御厚誼を深謝し此段謹告仕候　昭和十八年五月二十三日　夫　眞海繁次郎　男　[illegible]　[illegible]

守衛募集　[illegible]　臺中州大甲郡[illegible]　臺灣パルプ工業株式會社

臺灣藤井の科學陣に一大躍進　自然界を征服したる竹から生れた理想の耐火耐水建材　建材界の一大福音　藤井の竹纖板　藤井ラス出現す　◎耐火試驗成績表　本品の耐熱度[illegible]氏六百度內外　◎本品特長　釘が打てる、鋸で自由に切れる、落しても割れぬ、[illegible]　◎本品用途　建築材、柱板、電信、梱木、金庫、書棚、冷藏庫、テーブル板、天上板、床下板、壁下板、看板用、貯水用板、黑板其外多方面に使用出來ます　◎現在寸法　幅三尺縱三尺、幅二尺縱六尺、幅一尺縱六尺、縱六尺厚サ三分、[illegible]注文に應じます、現在見本は店頭に陳列してありますから御高覽を願ます　◎木ずり代用品あり　臺北市榮町　藤井呉服店內　藤井建材工業所　電話[illegible]

小兒科　臺北市京町一丁目　山本小兒科醫院　院長　山本宗三郎

外科　泌尿科　放射線科　福島外科醫院　[illegible]

月掛　新組募集　健民住宅　臺灣住宅無盡株式會社　[illegible]

海の鳳雛を鍛へる（三）

迅速が生命の水雷戰

合掌、必勝のただ一發

―水雷學校の巻―

五月八日大詔奉戴日、この朝八時三十分うららかな陽光に映える高雄市内の海軍水雷學校の校庭に整列した[illegible]「海ゆかば」の旋律が流れてゐた。昨年四月から本校ではハワイ眞珠灣の特別攻撃隊員として散華した[illegible]、片山、[illegible]、佐々木の五軍神の[illegible]を大詔奉戴日毎に行つて來たが、五月からは更にマダガスカルとシドニーに散華した竹本、高田、[illegible]、大森、都竹五勇士の[illegible]式も修された。正面壇上に安置され[illegible]

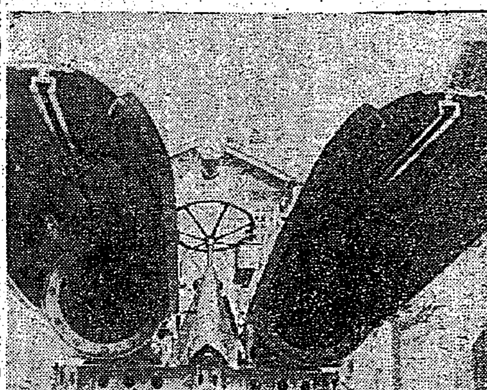
[illegible]

水雷戰術　は日淸、日露の[illegible]

水雷戰の眞價　はいたづらに[illegible]

水雷魂こそ　この一本勝負[illegible]「エイ」「オウ」[illegible]

（寫眞は魚雷發射[illegible]　海軍省許可濟第一〇一號）



巷を海軍一色に

羅東郡の海軍記念日

【羅東電話】大東亞戰下に第三十八回海軍記念日を迎へるに方り羅東郡では二十五日午前十一時より[illegible]

[illegible]

高雄州の中等學校長會議

【高雄電話】高雄州では來る二十一日午前九時半州會議室に於て中[illegible]

一、[illegible]

二、[illegible]

三、各教科の全般的統一を圖る具體案

美しい師弟愛

【臺中電話】師弟愛美談――彰化高女一年生吉原久惠（一）さんは過日自林郡永[illegible]より自動車に乘車せんとした際同自動車[illegible]

軍民和樂の實

宜蘭分院の慰問會

【宜蘭電話】宜蘭市[illegible]陸軍病院宜蘭分院慰問會は[illegible]二十一日午後七時三十分から同院娛樂室に[illegible]

南方に赫々の偉勳

功を競ふ譽の兄弟

竹東郡出身五君散る

【新竹電話】新竹州竹東郡山地[illegible]

▲中村道雄君（ピイライ社出身＝戰死）[illegible]

▲林田健一君（マイバラ社出身＝戰死）[illegible]

▲荒木義徳君（タイアイ社出身＝戰病死）[illegible]

▲齋藤勇君（シイガオ社出身＝戰病死）[illegible]

▲太田義夫君（マキヤマ社出身＝戰死）[illegible]

商奉團臺南州支部

【臺南電話】[illegible]

土橋州理蕃課長遺族を弔問

【臺中電話】[illegible]

軍人援護臺中州支部理事會

【臺中電話】[illegible]

實戰記錄映畫『海軍戰記』

高雄警備府で試寫會

【高雄電話】高雄警備府では二十二日午後[illegible]

海軍志願兵制決定感謝の講演會

【斗六電話】[illegible]

武勳輝く高砂義勇隊

第二回臺中州隊戰病死者發表

【臺中電話】高砂義勇隊臺中州隊の第二回戰病死者の氏名發表[illegible]

（△印は戰病死者）

△中川正夫、△[illegible]田正吉、谷村吉三郎、△生駒久夫、宮本國雄、田代茂雄、平野敬、吉村[illegible]一、加藤武二、△谷村泰夫、△村田一夫、△森野哲夫、△多田七郎、△小川信夫、△永田利光

臺中州水利協會で功勞者を表彰

【臺中電話】[illegible]

港都の奉壯團强化

新團員を迎へ總力邁進

【高雄電話】[illegible]

羅東郡下街庄長會議

【羅東電話】[illegible]

臺中州警察部異動

父兄の惱み解消

【臺中電話】[illegible]

天晴れ軍國の父

遺書に見るこの忠誠

病床より子を激勵

【新竹電話】[illegible]

國民皆泳へ

旅後で合宿訓練

【臺南電話】[illegible]

臺東に大量增産

玉咲ツヅラ藤栽培訓七ケ條

【臺東電話】[illegible]

高雄州勸業課長會議

【高雄電話】[illegible]

恒春郡車上青年校開校

【恒春電話】[illegible]

海軍體操を根幹

臺南、嘉義　皇民體操講習會

【臺南電話】[illegible]

三星庄で巡回映畫

【羅東電話】[illegible]

大相撲星取表（四日目）

（○は勝　●は負　やは休　あは預り　分は引分）

[illegible]

夏・山は招く

【嘉義電話】[illegible]

登山申込は早目に

豐田村保甲民海軍へ赤誠

【花蓮港電話】[illegible]

高雄で旅館宿泊料金の周知徹底

【高雄電話】[illegible]

皇奉臺中支部六月行事打合

【臺中電話】[illegible]

新竹市の夏季執務時間更に延長

【新竹電話】新竹市では六月一日から官廳執務時間が變更され午後二時までとなつてゐるのを今年から[illegible]

高雄市專賣品小賣組合總會

【高雄電話】[illegible]

屏東市米穀類製造組合創立

【屏東電話】[illegible]

嘉義郡水利組合で記念式

永年勤續者を表彰

【嘉義電話】[illegible]

戰力增强を期す

臺東廳郡守會議

【臺東電話】[illegible]

財務局長地租調査のため新竹臺中へ

【臺中電話】[illegible]

大橋準一郎氏

[illegible]

人事

[illegible]

本日小説休載

ラジオ

[illegible]

急告　新校舎落成……夕の講演・音樂　[illegible]　レディ[illegible]改名・帝都高等洋裁學院　學院長 中村都代子

結核療法の新道　肺結核、肋膜、腸結核、腹膜　ネオドラミン

[illegible]

再發　時候の變り目が一番危險！　服薬は今だ！　[illegible]　ダイエサイト　包装24錠　株式會社 朝韓洋行

輝く海軍記念日を期して封切!!　27日より

海軍戰記

壯烈なる海上決戰の連續！ソロモン海戰の生々しき記錄！報道班決死の撮影！

海軍省監修・日本映畫社製作

大世界館　第一劇場

給配社會制統行興灣臺

のみのコバタ　カモス齒磨　三月の課税品が一個税共十七錢　（定價十五錢＋税二錢）

机上も戰場だ　書きよい保ちのよい特殊耐酸ペン先付　資生堂萬年筆

中野高等無線電信學校　校長 沖貞男

ボイラー　工場・鑛山・兵舍・寄宿舍・病院等の　巴商會